

住宅用火災警報器の設置率等
と交換促進等について

消防庁予防課

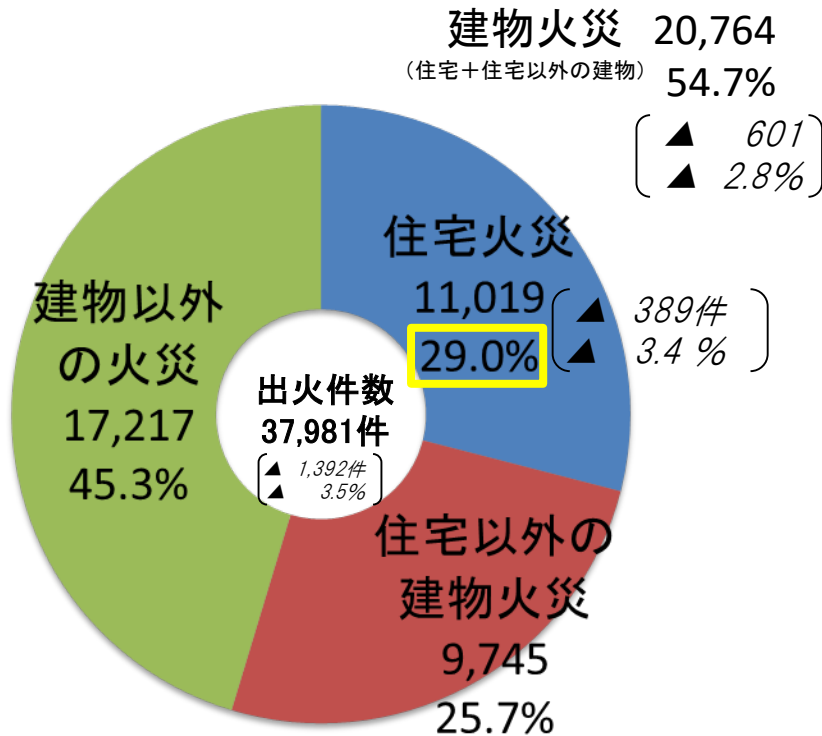
1. 住宅火災の現状について
2. 設置率等の状況について
3. 交換促進に向けた取組について

住宅火災による死者の発生状況（H30年）

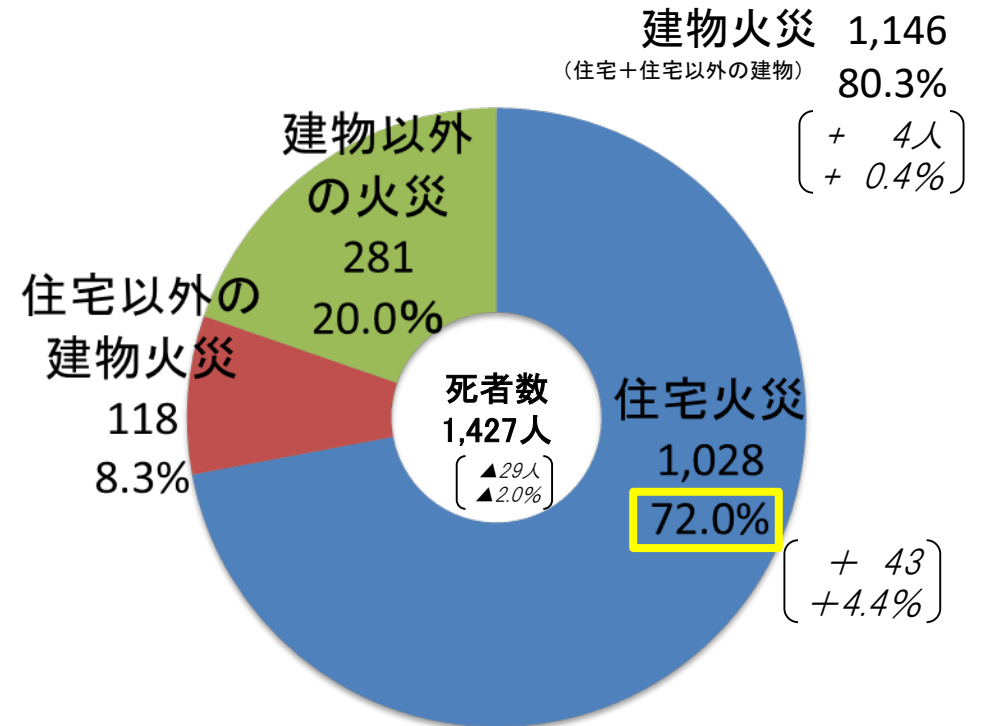
※放火、放火自殺者等を含む総数

- すべての火災件数のうち、**住宅火災の件数は約3割**（H30: 11,019件）
- すべての火災による死者のうち、**住宅火災による死者は約7割**（H30: 1,028人）

平成30年（1～12月）における火災の状況から作成（対前年比）



※ 放火を含むすべての火災

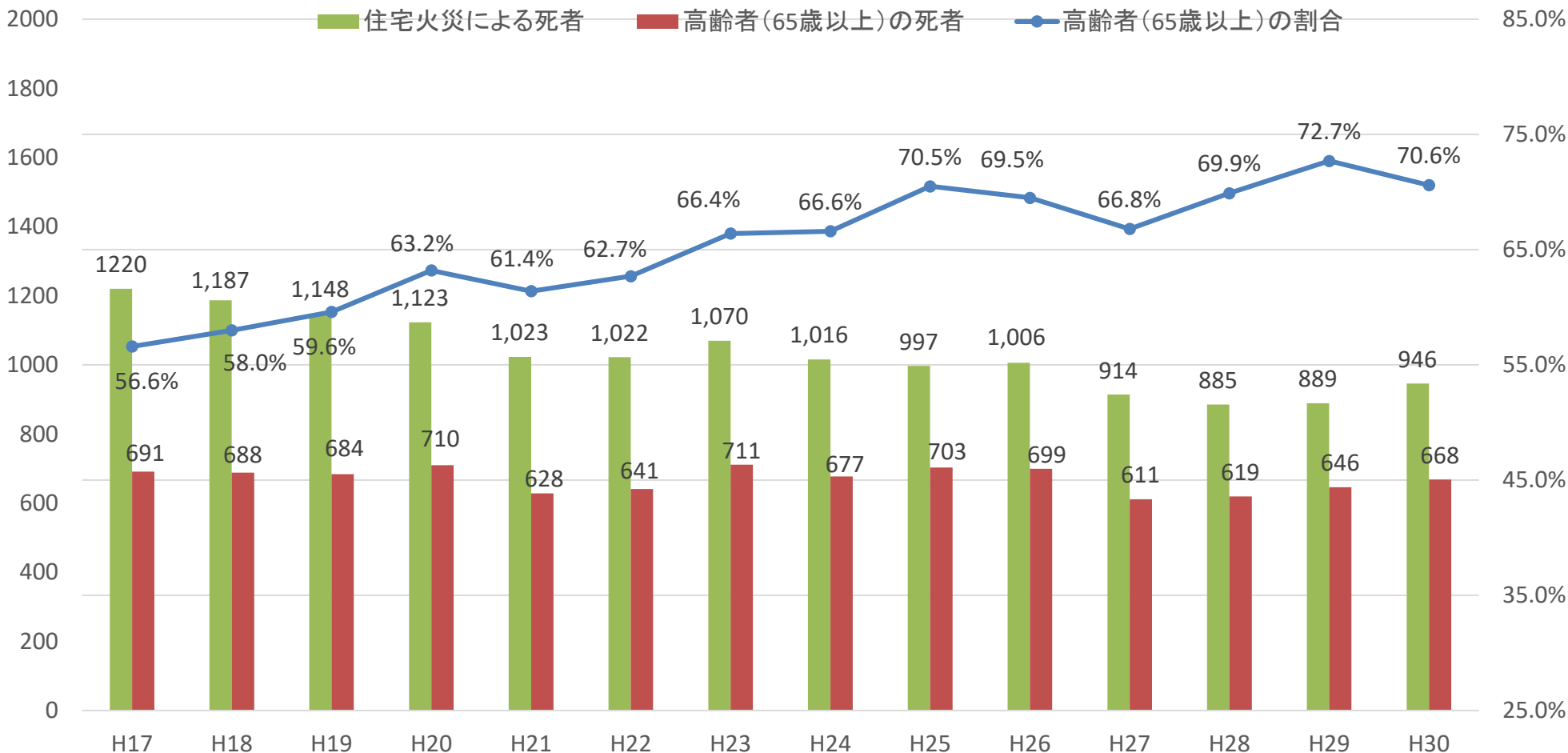


※ 放火自殺者等を含むすべての死者

住宅火災による死者数の推移 (放火自殺者等を除く)

(死者数:人)

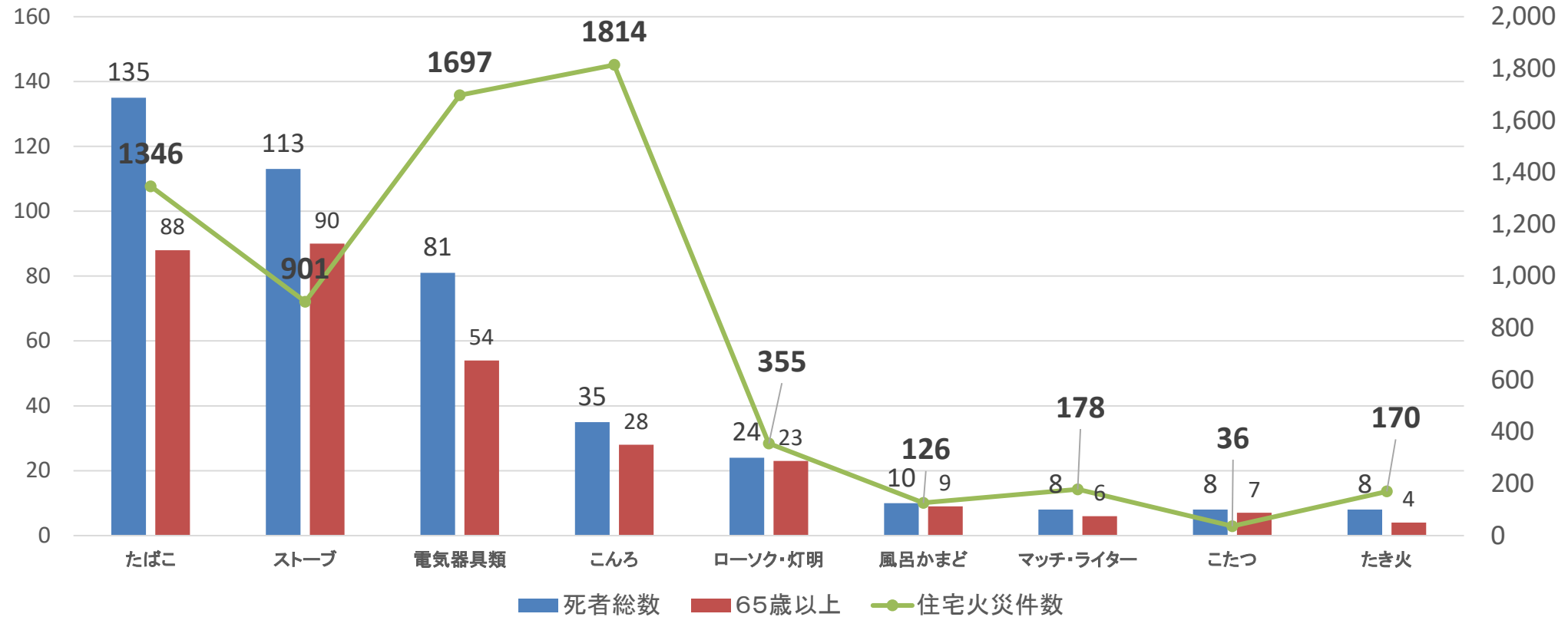
(高齢者が占める割合)



死者の約7割が65歳以上の高齢者 ⇒ 高齢化の進展を反映して増加傾向

住宅火災の出火原因別の件数・死者数(平成30年中)

- 住宅火災のうち、**出火件数の最多はこんろ火災**。死者数が多いのは、**たばこ火災、ストーブ火災、電気器具類(コンセント、コード、電気機器等)火災、こんろ火災**
- ストーブ・たばこ火災は発生すると、被害が拡大しやすい傾向**



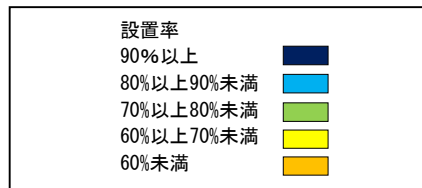
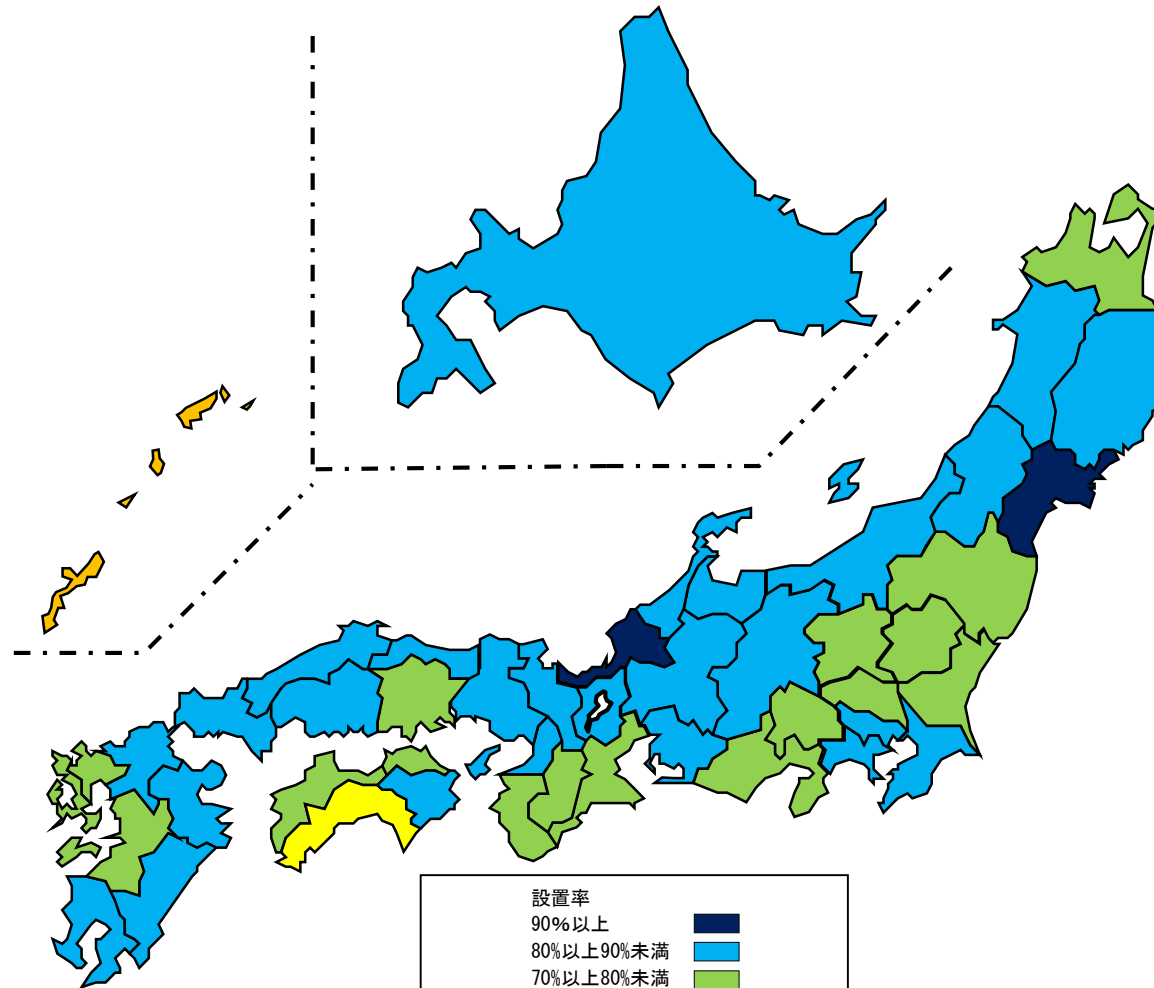
⇒製品の安全利用の周知及び安全装置付きのストーブ、こんろ等への買換え促進や、たばこ火災予防に関する啓発が必要

1. 住宅火災の現状について
- 2. 設置率等の状況について**
3. 交換促進に向けた取組について

都道府県別 住宅用火災警報器 設置率(令和元年6月1日時点)

(標本調査のため、各数値は一定の誤差を含んでいます。)

全国	82.3%	
北海道	82.0%	(19)
青森	75.1%	(41)
岩手	83.8%	(13)
宮城	91.4%	(2)
秋田	81.8%	(21)
山形	81.7%	(22)
福島	77.4%	(37)
茨城	72.5%	(44)
栃木	76.8%	(39)
群馬	70.7%	(45)
埼玉	77.5%	(36)
千葉	80.0%	(27)
東京	89.3%	(3)
神奈川	84.1%	(12)
新潟	86.5%	(9)
富山	86.4%	(10)
石川	88.1%	(5)
福井	94.5%	(1)
山梨	79.1%	(31)
長野	82.0%	(19)
岐阜	80.9%	(24)
静岡	79.4%	(30)
愛知	80.7%	(26)



三重	76.8%	(39)
滋賀	82.7%	(17)
京都	87.9%	(6)
大阪	83.8%	(13)
兵庫	87.2%	(8)
奈良	74.0%	(42)
和歌山	79.1%	(31)
鳥取	83.0%	(15)
島根	82.6%	(18)
岡山	78.0%	(35)
広島	87.5%	(7)
山口	80.9%	(24)
徳島	80.0%	(27)
香川	77.1%	(38)
愛媛	78.9%	(33)
高知	68.5%	(46)
福岡	81.7%	(22)
佐賀	73.8%	(43)
長崎	78.4%	(34)
熊本	79.5%	(29)
大分	85.0%	(11)
宮崎	82.9%	(16)
鹿児島	88.7%	(4)
沖縄	58.2%	(47)

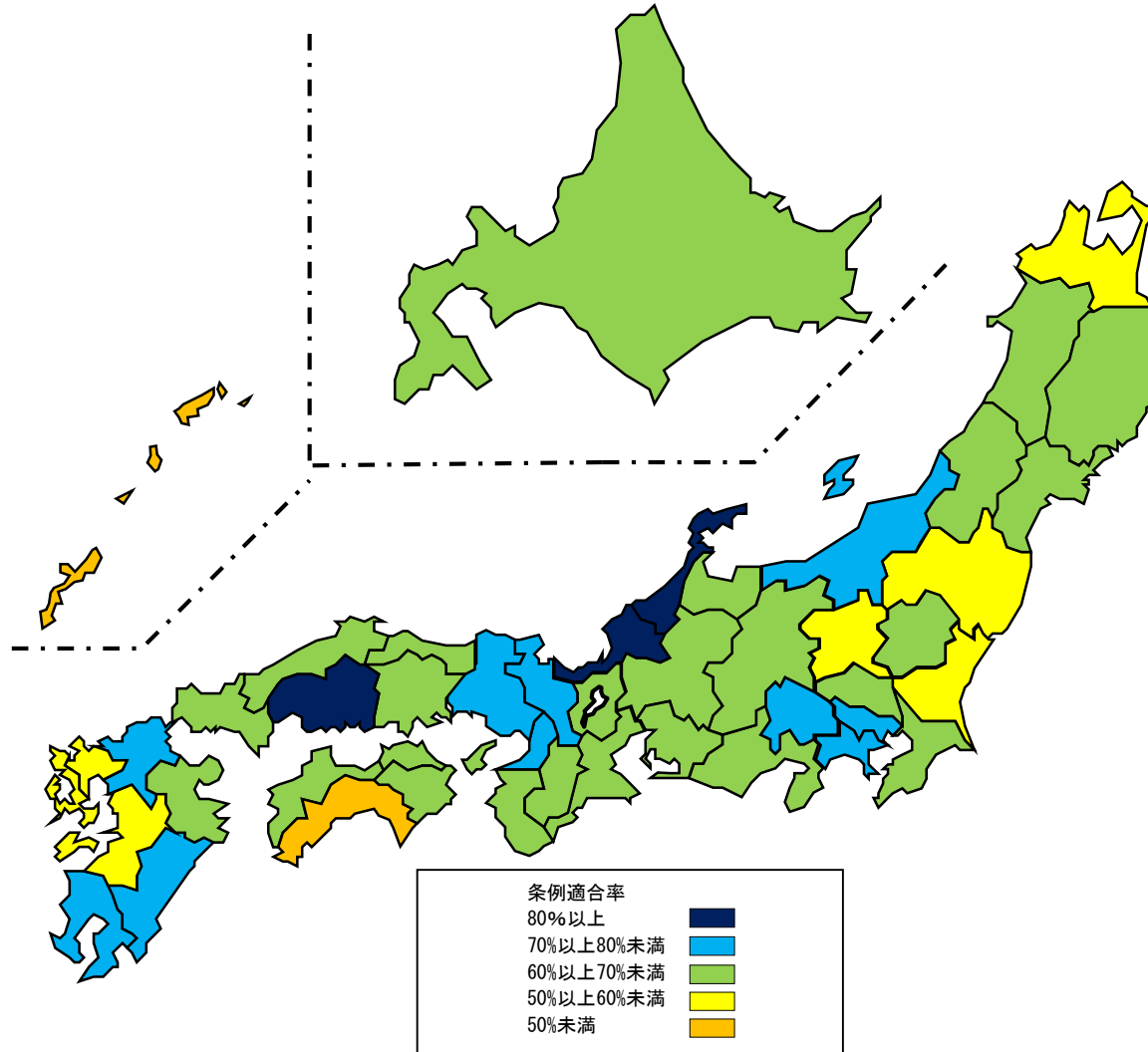
※「設置率」とは、市町村の火災予防条例で設置が義務付けられている住宅の部分のうち、一箇所以上設置されている世帯(自動火災報知設備等の設置により住宅用火災警報器の設置が免除されている世帯を含む。)の全世帯に占める割合である。

※()内は、設置率が高い都道府県から順に番号を付している。

都道府県別 住宅用火災警報器 条例適合率(令和元年6月1日時点)

(標本調査のため、各数値は一定の誤差を含んでいます。)

都道府県	条例適合率
全国	67.9%
北海道	67.6% (18)
青森	59.0% (39)
岩手	66.9% (21)
宮城	65.0% (26)
秋田	67.4% (19)
山形	60.8% (38)
福島	54.5% (44)
茨城	58.8% (40)
栃木	62.4% (33)
群馬	54.1% (45)
埼玉	65.2% (25)
千葉	65.5% (24)
東京	72.2% (7)
神奈川	72.2% (7)
新潟	71.2% (11)
富山	67.8% (16)
石川	84.0% (2)
福井	88.6% (1)
山梨	70.3% (13)
長野	66.0% (23)
岐阜	61.6% (36)
静岡	67.0% (20)
愛知	60.9% (37)



都道府県	条例適合率
三重	64.4% (28)
滋賀	62.2% (34)
京都	73.2% (6)
大阪	77.0% (5)
兵庫	70.4% (12)
奈良	63.0% (31)
和歌山	62.5% (32)
鳥取	63.6% (30)
島根	61.7% (35)
岡山	65.0% (26)
広島	80.6% (3)
山口	67.7% (17)
徳島	68.4% (15)
香川	64.0% (29)
愛媛	66.8% (22)
高知	46.4% (46)
福岡	71.7% (10)
佐賀	56.5% (43)
長崎	58.0% (42)
熊本	58.6% (41)
大分	69.5% (14)
宮崎	71.8% (9)
鹿児島	79.1% (4)
沖縄	43.0% (47)

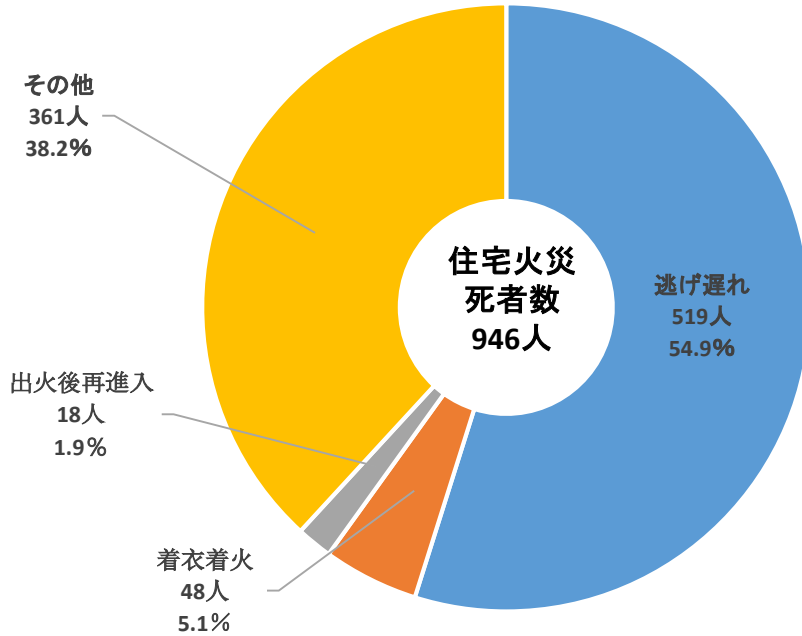
※「条例適合率」とは、市町村の火災予防条例で設置が義務付けられている住宅の部分全てに設置されている世帯(自動火災報知設備等の設置により住宅用火災警報器の設置が免除されている世帯を含む。)の全世帯に占める割合である。

※()内は、条例適合率が高い都道府県から順に番号を付している。

住宅用火災警報器の設置義務化と効果

【住宅火災による死者発生原因】

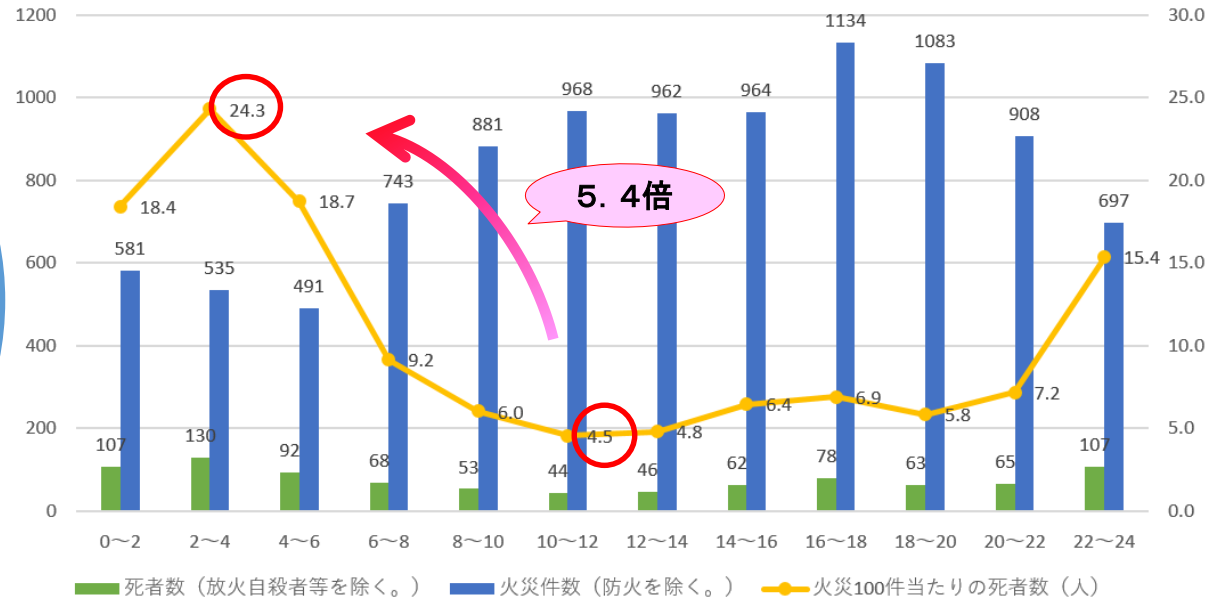
(平成30年、放火自殺者等を除く。)



「火災報告」により作成

【時間帯別の住宅火災における死者発生状況】

(平成30年中、放火・放火自殺者等を除く。)

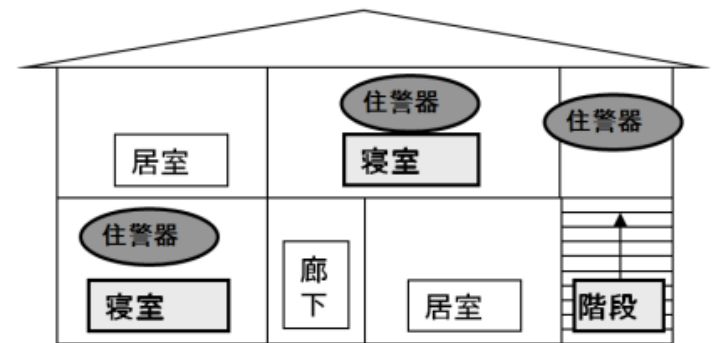


「火災報告」により作成

➤ 全ての住宅の寝室及び寝室に通ずる階段等に住宅用火災警報器の設置を義務化

新築住宅 平成18年6月から

既存住宅 平成23年6月までの間で市町村条例で定める日から



住宅用火災警報器の効果

H28年からH30年までの3年間における失火を原因とした住宅火災について、火災報告を基に、住宅用火災警報器の効果进行分析

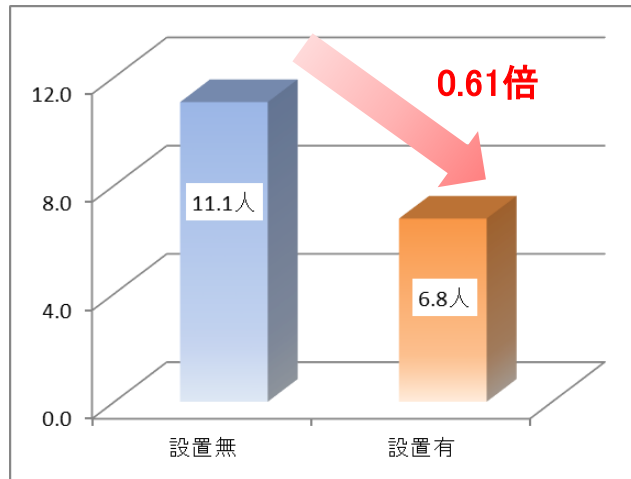
※ ここでは、住宅火災のうち原因経過が「放火」又は「放火の疑い」であるものを除く件数を、「失火を原因とした住宅火災」の件数としている。

死者数、焼損床面積及び損害額を見ると、住宅用火災警報器を設置している場合は、設置していない場合に比べ、死者の発生は4割減、焼損床面積と損害額は概ね半減

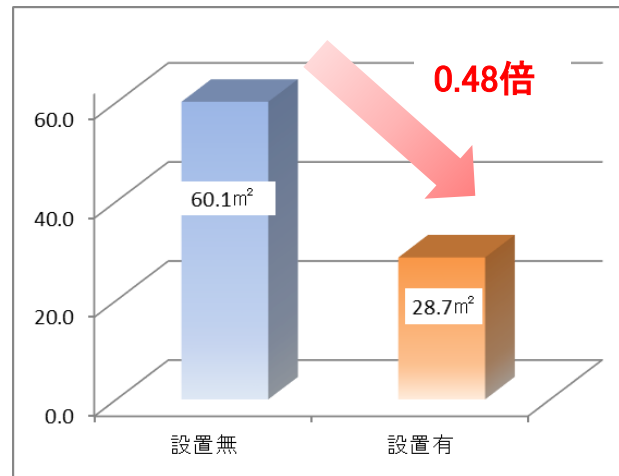


住宅用火災警報器を設置すれば、火災発生時の死亡リスクや損失の拡大リスクが大幅に減少

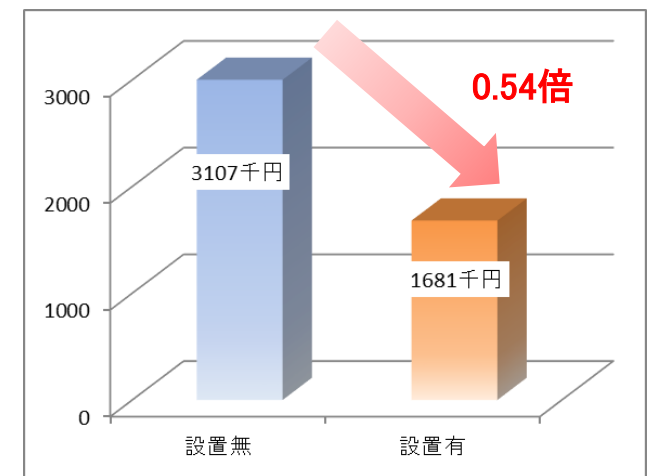
(人/火災100件)



(㎡/火災1件)



(千円/火災1件)



<住宅火災100件当たりの死者数>

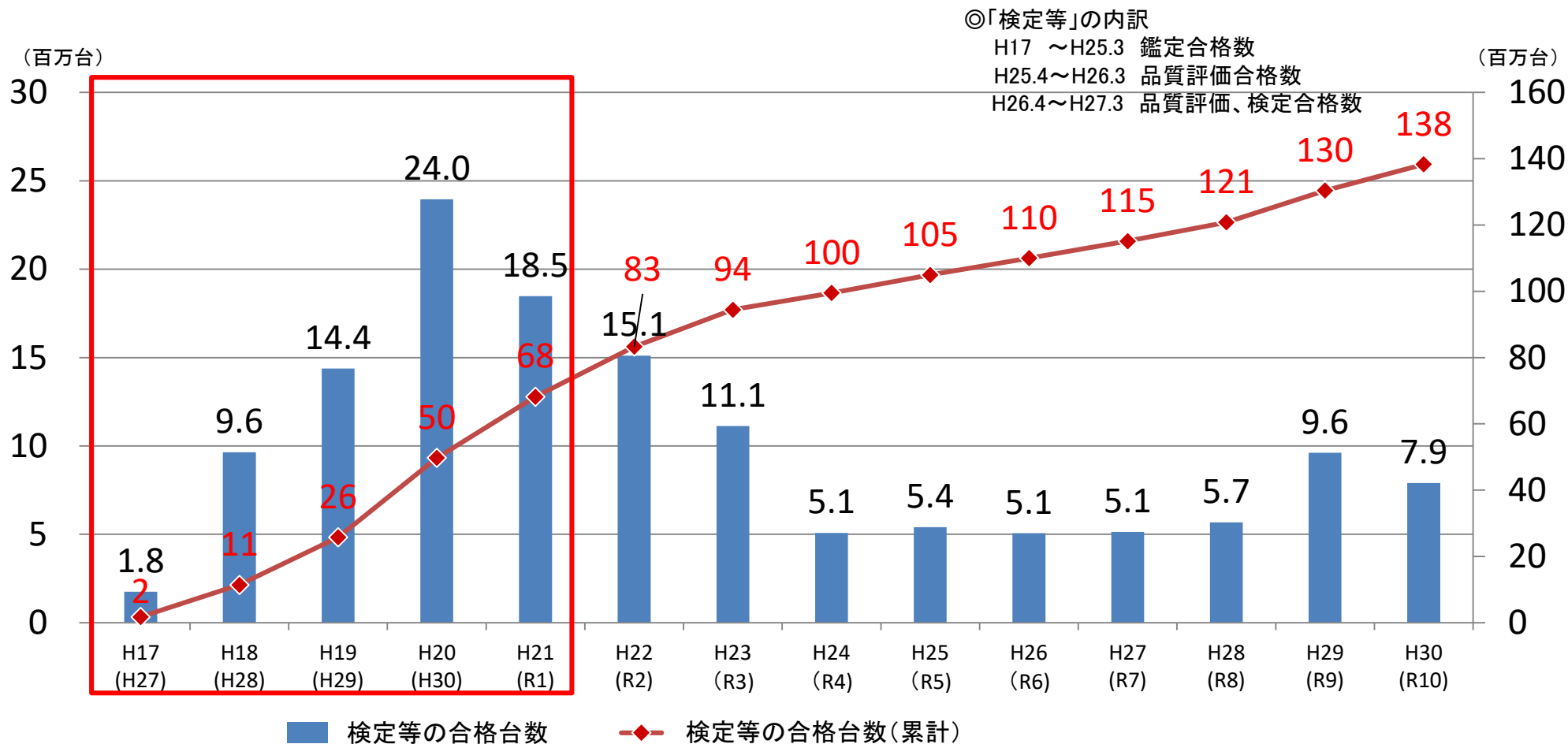
<焼損床面積>

<損害額>

注1)「死者」とは、火災現場において火災に直接起因して死亡した者であり、火災により負傷した後48時間以内に死亡した者を含む。

注2)死者の発生した経過が「殺人・自損」(放火自殺、放火自殺者の巻添者、放火殺人の犠牲者)であるものを除く。

住宅用火災警報器の検定等の合格台数



◎ 令和元年度に約7,000万台の住警器が検定等合格後10年を経過
 令和2年には、約8,000万台が設置から10年を迎える。

◎ 設置率等の調査とあわせて実施した維持管理状況の調査では、最近作動確認を行った世帯の約1%で住警器の電池切れや故障が確認された。

1. 住宅火災の現状について
2. 設置率等の状況について
3. 交換促進に向けた取組について

住宅用火災警報器 交換診断シート

一般社団法人日本火災報知機工業会において、住民自身や住宅防火診断等に訪れた消防職員が実際に設置されている住警器をチェックすることにより、住警器の維持管理や交換を促進するための診断シートを作成

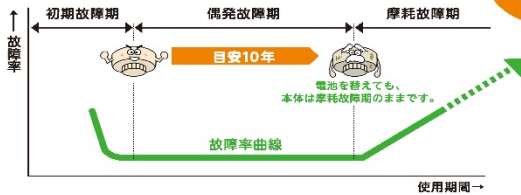
※リーフレットは今年度中に各消防本部に配布予定(電子データは工業会HPで公開中)

住宅用火災警報器 交換診断シート

この診断シートは長年設置してある住宅用火災警報器の交換が必要かチェックするものです。
設置から10年以上が経過した住宅用火災警報器は、交換診断をおすすめします。

古くなると、電子部品の劣化や電池切れなどで火災を感知しなくなることがあるんだ。
とても危険だよ！ お宅は大丈夫？

お宅でも交換診断してね！



家電製品の標準的な使用期間は、一般的に7年から10年といわれています。住宅用火災警報器も同様です。電子部品の劣化や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあり、とても危険です。

ご自宅の住宅用火災警報器を点検・確認してみましょう。

1. 点検する

警報器のボタンを押す、またはひもを引いて音を確認する



- ・正常な場合
「ピーピーピー」、「ピーピーピー-火事です」、「正常です」など
※警報音はメーカーや製品により異なります。
- ・電池切れの場合
「ピッ... ピッ...」
- ・故障の場合
「ピッピッピッ... ピッピッピッ...」

※電池のコネクタが、本体にしっかり差し込まれていないと音が鳴らない場合もあります。

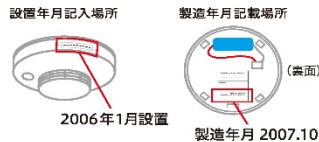


ウェブでプザー音が確認できます。

どりかエルグループ 監製

2. 確認する

警報器の設置年月や製造年月を確認する



- ・記入場所はメーカーや製品によって異なります。
- ・設置後間もなく電池が切れた場合は、販売店またはメーカーにご相談ください。

お問い合わせ

裏面で住宅用火災警報器の交換診断をしてください。

一般社団法人 日本火災報知機工業会

3. 診断する

住宅用火災警報器 診断書の書き方(記入例) 下の記入例を参考に、ご自宅の警報器をすべてチェックしてください。

とりかエル 家の 診断者: とりかエル 診断日: 2019.10.1

住宅用火災警報器 診断書

診断科目	設置場所	警報器の"ボタンを押す"または"ひもを引く" どのような音が鳴りましたか?				警報器の"設置年月"や"製造年月"を確認する 10年経過していますか?		診断結果		
		正常音	電池切れの音	故障音	音が鳴らない	10年未満	10年以上	今は正常	交換を推奨	すぐに交換!
主寝室(床下)		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
寝室(床下)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
寝室(床下)		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

正常音が鳴動していて、製造後10年未満の場合は、今は正常にチェック!
 正常音が鳴動していて、製造後10年以上の場合は、交換を推奨にチェック!
 音が鳴らない場合は、製造後の経過年数に関係なくすぐに交換!にチェック!
 電池切れ、故障音が鳴っている場合は、製造後の経過年数に関係なくすぐに交換!にチェック!

住宅用火災警報器 診断書

家の 診断者: 診断日:

住宅用火災警報器 診断書

診断科目	設置場所	警報器の"ボタンを押す"または"ひもを引く" どのような音が鳴りましたか?				警報器の"設置年月"や"製造年月"を確認する 10年経過していますか?		診断結果		
		正常音	電池切れの音	故障音	音が鳴らない	10年未満	10年以上	今は正常	交換を推奨	すぐに交換!
寝室		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
居間		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
台所		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
階段		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
その他		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

診断結果に対するアドバイス

今は正常

今は正常です。しかし、故障率が時間の経過とともに増加してくるため定期的な動作確認を行い、10年を目安に警報器の交換をおすすめします。

交換を推奨

設置年数が10年を超えると故障率が時間の経過とともに急激に増加します。火災を感知できない(空白期間)をつくらぬためにも、早めの警報器交換をおすすめします。

すぐに交換!

電池を交換しても、その後機器自体が故障する場合があります。すぐに、新しい警報器に交換してください。古い警報器を廃棄する際は、市町村の廃棄ルールに従ってください!



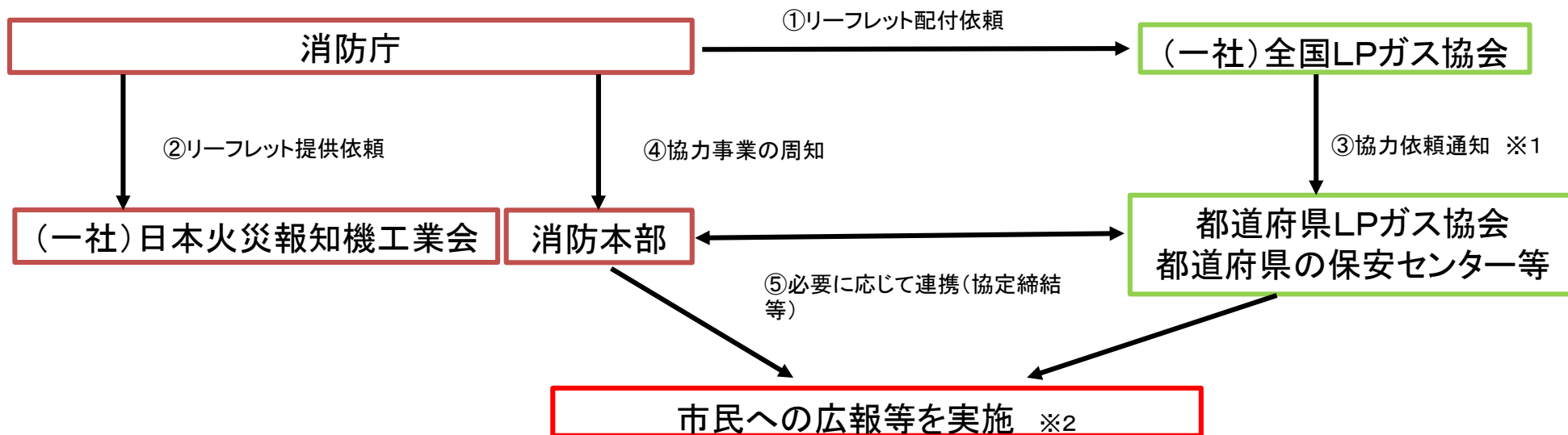
LPガス保安点検事業者等との協力事業について

概要

(一社)全国LPガス協会に対して、住宅用火災警報器の適切な維持管理や本体交換等の推進への協力について依頼

目的

- 住警器の適切な維持管理や交換等が必要となることから、LPガス保安点検事業者のリソースを活用し、住警器の維持管理や交換等について普及を図る。
- 住警器の維持管理や交換方法がわからない方へのサポートや高齢者など作業が不安な方にも安心を提供する。



※1 都道府県の保安センター等が実施しているLPガス機器等の定期点検などの機会を通じ、管轄の消防機関と連携・協力した啓発活動が実施できるよう協力依頼を通知

※2 使用するリーフレットは、一般社団法人日本火災報知機工業会が作成した「住宅火災警報器 交換診断シート」を活用

地域における住宅用火災警報器取替え推進活動事例①

大阪市消防局では、平成31年2月28日に、大阪ガス株式会社と住宅火災による死者を低減させることを目的に、「火災予防啓発に関する連携協定」を締結。大阪ガスのガス機器の修理等の業務委託を受ける大阪ガスサービスショップが、ガス機器だけではなく、住宅用火災警報器等の維持管理状況の確認や普及促進を併せて行う。他メーカー品であっても、万一の時に適切に作動するよう、維持管理や取り替えの必要性について広く呼びかける活動を展開する。

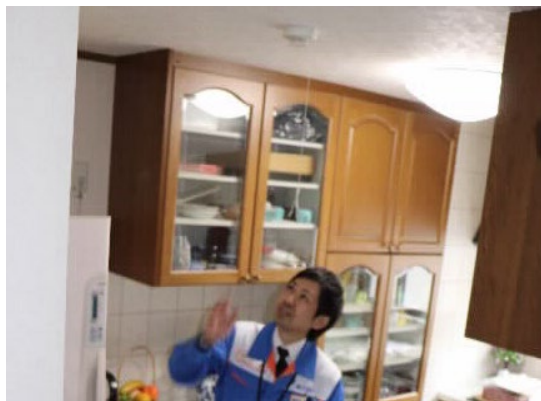


期待できる効果

消防職員による住宅防火訪問以外に、大阪ガス株式会社及び大阪ガスサービスショップのリソース(人・モノ・業務機会)を活かして、住宅用火災警報器及び消火器の啓発ができる。また、維持管理や交換方法がわからない方、高齢者や障がい者などの作業が不安な方にも、一層の安心を提供することができる。



ガス機器点検の様子



住宅用火災警報器の維持管理の説明




消火器を説明する様子

地域における住宅用火災警報器取替え推進活動事例②

住宅用火災警報器の点検状況の写真募集

岡山県・岡山市消防局では、住宅用火災警報器を設置してから10年を目安に電池や電子機器の劣化の関係から取り替えが必要な旨を広く市民に呼びかけるために、住警器の点検をしている写真を募集し啓発用パンフレットを作成


住宅用火災警報器を点検している写真を募集しています！
抽選でトップスポーツチーム選手のサイン等が当たります！！



○申込み方法 (応募写真、氏名、住所、電話番号、メールアドレス、希望プレゼント番号 (選手のサインを選ばれた方は選手名) を記載し郵送から申込み)

*応募期間 (11月7日まで)
*写真例1) 住宅用火災警報器のボタンを押している
例2) 住宅用火災警報器の点検ひもを引っ張っている

申込み



プレゼント

①トライフーン岡山②岡山リベッツ③岡山シーガルズ
④フジアーノ岡山の選手サイン色紙をプレゼント！
(希望する選手名を記入してください)
*選手によっては希望に添えない場合があります。
⑤消防グッズ (消防車消しゴム等) を進呈します。

詳細は岡山市消防局 予防課11まで 問い合わせ先は086-234-1199



みなさんからいただいた住宅用火災警報器の点検写真が集まりました！

正常な住宅用火災警報器で火災から命を守りましょう！

岡山市消防局 消防総務部 予防課




ボタンを押す

このようにボタンを押して点検します。

ひもを引っ張る

このようにひもを引っ張って点検します。

音を聞く

どんな音が鳴るかの確認をしてください。
※音の種類は、設置した機種によって異なります。

●音が聞けない場合は、電池切れ又は故障の可能性があり度ですので本体の取り替えをお勧めします！ ●家族や地域の方と協力してまずは点検をお願いします！

地域における住宅用火災警報器取替え推進活動事例③

住宅用火災警報器の取替・点検推進キャラクターの作成

新潟県・上越地域消防事務組合では、「“連動”型の住宅用火災警報器を“マメ”に行ってほしい」と住宅用火災警報器取替・点検推進キャラクター「レンドウ豆」を考案し広報活動を展開している。

市内の家電量販店の販売コーナーなどの掲示物として協力依頼や、イラスト入りのうちわなどを高齢者宅等へ配布するほか、消防イベントなどでの幅広い使用を今後予定している。



かんち

「ボクがいれば大丈夫!!」

「大切な人の大事を未然に『かんち』できる子になりますように」
そんな名前はジージとバーバがつけてくれました。
うちでも、学校でも、寝てる時さんじーロー気取りのやんちゃ坊主ですが、
実は、どこにいても家族を思っている、とってもやさしい子なんです!



まもり

「火事も、かんちのイタズラも
ゼツタイ許さないんだから!」

お母さん譲りのキレイな歌声で幸運を呼ぶ、家族の「おまもり」のような女の子。
やんちゃ坊主の弟かんちには困りもので、お自付け役として毎日大忙しです。

「逃げ遅れ ゼロへ!」



住宅用火災警報器はマメに点検 & 10年目安に交換を

住宅火災の人的被害の主要因は「逃げ遅れ」。何より大事なのは、火災に早く気付くこと。そこで住宅用火災警報器が役立ちます。お宅の警報器は、マメに点検していますか? やり方は簡単(ホタンを押す、ヒモを引っ張る等)。そして警報器は10年を目安にとりかえましょう。その際は「連動型」が断然オススメ。家中すべての警報器が連動して鳴るから、「逃げ遅れ」減少に絶大な効果を発揮します!

連動型住警器



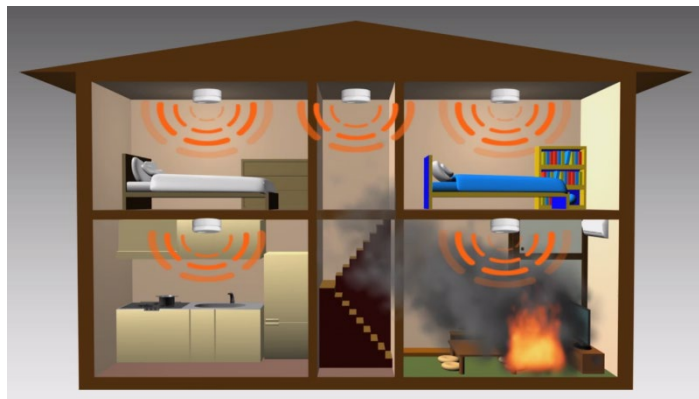
オススメは連動型
マメに点検
「レンドウ豆」

私たちは 上越地域消防事務組合 です。
TEL 025-525-1197 FAX 025-525-1191

ティッシュ内紙

連動型住宅用火災警報器の特徴

警報音が減衰せず、火災を早期覚知できる



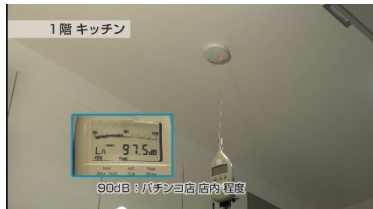
○火災を感知すると他の居室に設置された警報器も連動して警報を発するため、音が減衰せず、火災の早期発見・早期対応に効果的

➡ 無人の部屋で出火した場合でも、他の部屋で警報音を発するため、火災の早期覚知に効果的。

➡ 設置された部屋すべてで警報音が鳴るため、隣家の住民や道路上の通行人等が火災に気付く機会が増え、火災の早期通報に繋がる。

単独型の警報音は他の部屋では減衰する

■単独型の場合、一階で鳴った警報音は、2階では減衰してしまい、テレビなどを見ていると気付かない場合がある。



1階:約90dB

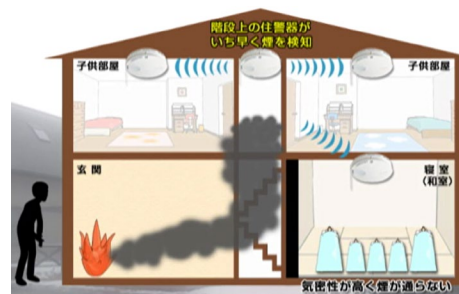


2階:約30dB

(警報音を発している住警器の直近での音の大きさ) (ドアを閉めた二階での音の大きさ)

奏功事例

2010年 札幌市内で起きた事例



- ・1階の寝室で家族全員で就寝中、玄関に放火され、出火
- ・寝室の密閉性が高く、煙は流入せず。階段上の住警器が煙を感知し、寝室を含む家中の警報器が連動して警報音を発した。
- ・早期に火災を覚知して避難できたため、家族全員が無事であった。

(事例提供: パナソニック(株))

平成31年「屋外警報装置等の技術基準検討会報告書」の概要

「屋外警報装置等の技術基準検討会」

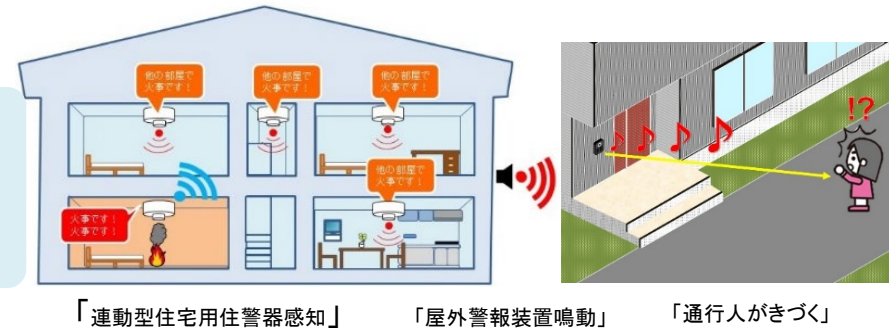
●住宅等における防火対策を促進するために、屋内の住宅用火災警報器と連動して火災発生を周囲に知らせる屋外警報装置等に求められる性能基準などのガイドライン策定を目的として検討を行った。

背景

- ◎ 住宅における火災被害の軽減を図るため、平成18年に住宅用火災警報器の設置が義務付けられた。
- ◎ 高齢者の単独世帯や夫婦のみ世帯の増加や、住宅の遮音性能の向上等を踏まえると、火災発生と同時に屋外にいる人にも火災を知らせることは、被害を軽減する上で有効と考えられる。
- ◎ 近年、火災発生時に無線により住宅内の全ての住宅用火災警報器が同時に鳴動する連動型住宅用火災警報器が普及し始めている。

屋外警報装置とは

- ◎ 連動型住宅用火災警報器が火災時に発する無線信号を受信し、屋外で火災警報を発する装置
- ◎ インターホンを利用する住宅もあることから、屋外警報装置の機能を有するインターホンも考えられる。



主な求める性能について(ガイドラインの主な内容)

- ◎ 警報音の音圧は**70dB以上**であり、その状態を**1分間継続**できること。
- ◎ 警報音とあわせて、**音声**(「火事です、火事です、119番通報してください」等)により火災発生を周囲に知らせる。
- ◎ 屋外に設置するものは、**JIS C 0920(電気機械器具の外郭による保護等級)のIPX3(散水に対しての保護)以上の防水性能**を有すること。

ガイドライン運用にあたって

- ◎ 屋外警報装置等の普及を図るため、広く国民に周知し、認知を図ることが重要である。
- ◎ 製品化された屋外警報装置等を国民が正しく選択できるように、基準に適合している旨を国民が容易に確認できるようにすることが望ましい。
- ◎ ガイドラインの基準は、最低限度満たすべき基準として整理していることから、環境騒音の大きな場所にも対応できるような製品やスマートフォン等の通信機器と連動する製品などさらなる付加価値を持つ多様な製品が開発されることが望まれる。

屋外警報装置の機能を有するインターホンの例

インターホンに屋外警報装置の機能を付加した製品(ガイドライン適合)が既に発売されている。

● 警報音+音声メッセージ+LEDライト点滅



地域における火災情報共有の取組

糸魚川市消防本部によるモデル事業について

糸魚川市消防本部では、連動型住宅用火災警報器を活用したモデル事業を実施
木造住宅密集地区において75歳以上の高齢者世帯、避難行動支援者が在宅している住宅の内外に
連動型住宅用火災警報器を設置し、異常発生を屋外に知らせ近隣の方が火災への対応を早期に行
えるようにするもの。

【木造住宅密集地区防災力強化モデル事業のイメージ】

